

茨城県神栖町における有機ヒ素汚染メカニズム解明調査の結果と今後の対応について

汚染メカニズム解明調査結果報告書のポイント

平成17年6月29日 国内における毒ガス弾等に関する総合調査検討会にて決定・公表。

別の汚染源が存在する可能性は完全には否定できないものの、いわゆるA井戸南東90メートル地点で発見された高濃度の有機ヒ素を含むコンクリートのような塊が神栖地域の地下水汚染の汚染源である可能性が高い。

コンクリートのような塊は平成5年6月以降に投入された可能性が極めて高い。塊からは、毒ガス成分（ジフェニルシアノアルシン等）はまったく検出されなかったため、毒ガスではなく、ジフェニルアルシン酸そのものがコンクリートに混ぜられて投入された可能性が極めて高い。

環境省における今後の取組

平成15年6月の閣議了解に基づく原因究明、健康被害への対応等の取組を引き続き着実に実施し、健康被害の未然防止と健康不安の解消に万全を期す。

- ・健康診査の実施、医療費の支給等を内容とする緊急措置事業や健康影響の調査研究事業の継続
- ・地下水モニタリングなど汚染メカニズム解明、汚染外縁の把握と飲用自粛措置などの継続

コンクリートのような塊を投入した者の探索については、廃棄物処理法の枠組みを活用しながら、国と茨城県が連携して進める。

今回掘削された汚染土壌、高濃度の有機ヒ素を含むコンクリートのような塊を適正に処理

毒ガス情報センターにおける情報収集継続等